

鳥インフル「4カ所変異で空気感染」

人に感染すると致死率が5割以上の高病原性鳥インフルエンザウイルスは、一つの遺伝子が4カ所変異するだけで哺乳類の間で空気感染するようになることがわかった。河岡義裕東京大医科学研究所教授らが3日付の英科学誌ネイチャー電子版で発表した。1カ所だけ変異したウイルスは国内でも見つかっている。

論文は、バイオテロに悪用されかねないとの理由で、米政府の委員会から昨年12月に内容の一部削除を求められ、公表が先延ばしになっていた。

高病原性鳥インフルエンザが哺乳類の間で空気感染するようになるれば、世界的大流行につながる恐れがある。

河岡さんらは、感染に重要なウイルスの遺伝子を操作して210万種類の変異を作り、人の気道や肺の組織に感染させるなどして、人に感染して増えやすくなる変異を探した。イタチの一種フェレットでの実験で、遺伝子に4カ所の変異が起きるだ

「テロ悪用懸念」論文を公表

けで、空気感染して増えるようになることがわかった。

4種類のうち1種類の変異は、アジアや中近東、アフリカ、ヨーロッパなどですでに広がっていると。一昨年の冬に日本各地で見つかった鳥インフルエンザウイルスにもあった。

河岡さんは「インフルエンザウイルスは容易に変異を起こす。監視を十分にするほか、他の変異の性質も調べる必要がある。現在、中断している鳥インフルエンザの研究を早く再開すべきだ」と話している。